

12/17 五社

敵基地攻撃能力 5兆円超を投入

16日に閣議決定された安保3文書のうち「防衛力整備計画」は、2023〜27年度の5年間で、軍事費を現行5年間の計画の1.5倍超となる約43兆円と

する計画を盛り込みました。このうち「敵基地攻撃」に直接転用される「スタンド・オフ防衛能力」に約5兆円を投入することが明らかになりました。

射程を中国本土まで到達可能な1000キロ超に延長する12式対艦誘導弾能力向上型の艦に約1兆円、敵に

迎撃されにくい高度を軌道変更しながら極超音速（マッハ5以上）で飛行（ひしょう）できる巡航ミサイル「極超音速誘導弾」の開発・量産に計6千億円、各種スタンド・オフ・ミサイルの訓練弾等の取得に6000億円を計上しています。

また、十分な「継戦能力」の確保・維持のための火薬庫の整備に2千億円を充てます。

一方、導入がうたわれている米国製の長距離巡航ミサイル・トマホークについては費用が示されていません。敵基地攻撃と「ミサイル防衛」を一体化し

- ▽スタンド・オフ防衛 約5兆円
長射程のミサイル配備
- ▽統合防空ミサイル防衛 約3兆円
新型イーシス艦など整備
- ▽無人アセット防衛 約1兆円
攻撃型無人機など配備
- ▽宇宙 約1兆円
次期防衛通信衛星など整備
- ▽サイバー 約1兆円
サイバー防護機材、人材育成
- ▽機動展開能力 約2兆円
海上、航空輸送能力を強化
- ▽弾薬・誘導弾 約2兆円
27年度までに必要数量確保
- ▽装備品等の維持整備費 約9兆円
部品不足を解消
- ▽施設の強靱(きょうじん)化 約4兆円
重要施設の地下化
- ▽研究開発 約1兆円
民生先端技術の取り込み

防衛費総額約43兆円の主な内訳

た「統合防空ミサイル防衛能力」には計約3兆円を投入します。高額な「イーシス・システム搭載艦」2隻及び港湾施設等の関連経費として計5300億円、迎撃ミサイルの「SM3ブロック2A」に2000億円を投じます。

加えて、「いすも型護衛艦への搭載が狙われているF35Bステルス戦闘機に4000億円、F15戦闘機への「スタンド・オフ・ミサイル搭載のための改修費用3000億円なども盛り込まれており、これらも「敵基地攻撃」関連といえます。